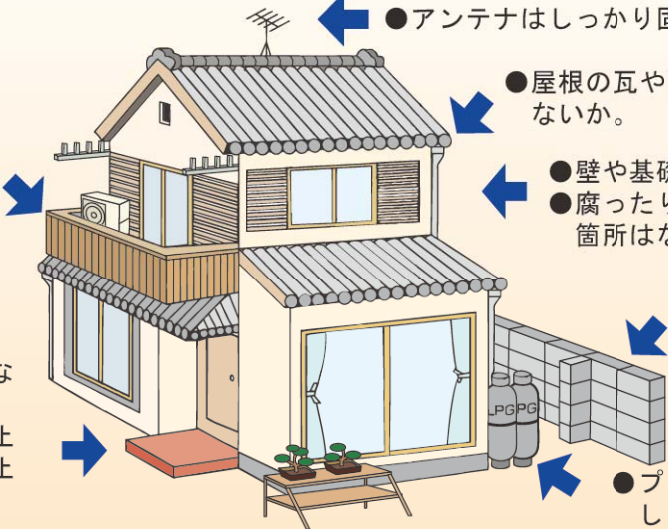


# 地震への備え

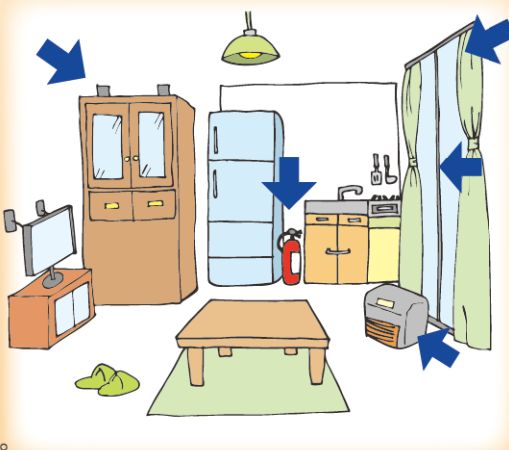
地震が起きる前に、みなさんの家の屋外や屋内について、地震に対する安全性を点検しましょう。

## 屋外の備え・点検箇所



- ベランダの手すりに破損や腐食箇所はないか。
- ベランダに置いてあるものが落下する恐れはないか。
- アンテナはしっかり固定されているか。
- 屋根の瓦やトタンに破損や腐食箇所はないか。
- 壁や基礎にひび割れなどがいないか。
- 腐ったり、シロアリに食われている箇所はないか。
- ブロック塀にはしっかりした鉄筋が入っているか。
- 破損箇所はないか。
- プロパンガスボンベは鎖などでしっかり固定されているか。
- 通路や出入口には、避難の妨げになるようなものを置かない。
- 鉢植えなどはスベリ止めマットなど転倒防止対策をおこなう。

## 屋内の備え・点検箇所



- 背の高い家具はL型金具や突っ張り棒で固定する。
- テレビは転倒防止バンドや金具で壁は柱に固定する。
- カーテンは防災処理を施したものにす。
- 窓やガラス戸には飛散防止フィルムを前面に貼る。
- 出火した時の初期消火に備え、消火器などを用意する。
- ストーブやコンロの周りには燃えやすいものを置かない。
- ストーブは耐震自動消火機能つきにする。

■安全のために……

- 安全な空間を確保するために、家具の配置や転倒防止措置を工夫しましょう。
- 出入口や通路は避難できるスペースを確保しましょう。
- 非常用持ち出し品は、すぐに持ち出せる場所に置きましょう。

# 地震発生!安全対策10カ条

- 1 まずは身の安全を!
- 2 すばやく火の始末
- 3 戸を開けて出口の確保
- 4 火が出たらすぐ消火
- 5 あわてて外に飛び出さない
- 6 ブロック塀や自動販売機に近づかない
- 7 協力し合って応急援護
- 8 山崩れ、崖崩れ、津波に注意
- 9 避難は徒歩で!
- 10 正しい情報を聞く

# 地震による建物の被害

地震で建物が受ける原因はいろいろあります。地震による建物の被害を減らすためには、住宅の耐震化が非常に重要です。みなさんの生命や財産を守るためにも、必要に応じて建物の耐震補強などを行い、自分の家の安全を確保しましょう。

## ■耐力壁の不足や片寄り



耐力壁(筋交が入った壁等)が少なかったり片寄っている建物は、大きな被害を受ける可能性があります。

## ■屋根の重量過大



屋根をあまり重くすると大きな被害を受ける可能性があります。

## ■上下階のバランスの悪さ



一階部分が車庫、ピロティになっていたりすると、建物のバランスが悪く大きな被害を受ける可能性があります。

## ■基礎の不備



地盤が悪く建物基礎も弱い場合、大きな被害を受ける可能性があります。

## ■建物の老朽化



建物が老朽化していたりシロアリ被害を受けていると、材料の強度が低下し大きな被害を受ける可能性があります。

## ■その他に……

●地盤が悪いところに建つ木造住宅は、地震の時、大きな被害を受ける可能性があります。

# 耐震診断や耐震改修のすすめ

## まずは住宅・建築物のチェック!!(耐震診断)

昭和56年以前の住宅にお住まいの方は、耐震診断をおすすめします。耐震診断とは、住まいの耐震性がどの程度か調査します。耐震診断の方法は、以下の方法があります。詳しくは、嘉島町役場 建設課までお問い合わせください。

簡易診断	木造住宅については、ご自身で出来る簡単な耐震診断が可能です。「誰でもできるわが家の耐震診断」が(財)日本建築防災協会から提供されています。 ( <a href="http://kenchiku-bosai.or.jp/wagayare/taisin_flash.html">http://kenchiku-bosai.or.jp/wagayare/taisin_flash.html</a> )
一般診断	耐震補強が必要かどうか判断するための耐震診断で、目視による現地の概略調査及び図面などから診断します。
精密診断	一般診断により、補強が必要と判断された場合に、より実際の建物に即した補強計画などを目的に、建物すべての部分についての詳細な調査及び図面等から診断します。

※耐震診断には、専門の知識や経験が必要です。専門家である建築士に依頼しましょう。

## 補強やリフォームで耐震性を向上させる!(耐震改修)

補強やリフォームの工事にあたっては、信頼できる施工者に工事内容及び費用の説明を受け、あらかじめ契約書をかかわす事が大切です。また、建築士の監理によりトラブルを未然に防ぐ事ができます。耐震補強・改修は、以下の3つのアクションを進めます。

①耐震診断	建物が地震に対してどの程度の強さを持っているかを調べます。
②耐震設計	耐震診断の結果にもとづいて具体的な補強方法を決めます。
③施工	耐震補強設計にしたがって実際に工事が行われます。

※リフォーム時は、耐震改修の絶好の機会です。

